

(二〇) 【解説文】

明治五年七月十三日

明治八年三月十二日

此三度差出扣

明治九年二月廿二日

田所略系

田所竹槌
飯田直彦

資元
隆

佐西四度使、姓平又佐伯両姓、当国執事職、免状ニ有リ

氏三宅、通称相知不レ申、又田所ト云ハ免状ニ任ニスト田所執事職一
有ルヲ以テ代々田所・三宅両名ヲ用ユ、尤年号ハ分リ不レ申、元祖ヨリ十五代高資代相論之事有而、弘長二年夏上洛ス、其時重代之書類周防之国阿弥仏ノ宿所ニ預ケ置、文永三年

二月十五日、同所出火ニテ代々ノ書類、国宣、年々免状悉ク焼失ス、然リト雖モ知行無ニ相違「旨ヲ訟」工、譲リ状ノ旨ニ任せ、弘安十一年五月日免状ヲ賜ハリ、其免状アリ、元祖ヨリ十五代迄之年号悉ク相知不レ申

資二
遠

佐西四度使、姓平又佐伯両姓相伝フナリ、

氏三宅、伝云、佐西四度使ニテ当国佐伯郡三宅村ニ住セシ故ナリト、又田所ハ当国田務職タリシヲ以テノ事ナリト云フ

資三
俊

佐西四度使、姓平、氏三宅、父資遠齡八十有余ニテ卒ス、此時親族池田四郎季直ト云者、田所執事職ヲ欲ニ押領一、然レトモ其謂「旨訟」朝廷、如レ元令レ得レ譲ト伝云フ、此者迄三代佐西四度使トアレトモ、四度使免状焼失ニテ相知不レ申

信四
職

姓平、氏三宅、康平七年二月朔日、父資俊之受レ譲而相続シ、任田所執事職、又寛治五年四月、田所代々職事欲ニ于嫡子兼信請ニ國裁一、則受レ譲、此兼信補ニ任大帳所大判官代ニ

五
兼信

姓平、寛治五年四月十日、父信職之受レ譲而任ニ田所執事職之御序宣ト云倫旨所持ス、又安南・佐東・加茂・高宮諸郡之内領知ヲ譲ルト云フコト本系図ニ相見工、序宣 田所 大帳所惣判官代三善兼信、寛治五年四月十日

大介藤原朝臣 墨判 御朱印五所ニ在リ

六 経兼

姓藤原、氏三宅、任惣大判官代散位藤原朝臣ニ、
保安三年十二月九日、被レ任ニ相伝譜代之執事完部
職ニ之国宣アリ、又執事職相伝所帶自ニ兼信一之
受レ譲

七 兼守

姓藤原、氏田所、此時ヨリ專ラ田所ヲ用ユ、
任ニ田所大判官代散位藤原朝臣ニ、
保延元年七月五日、補ニ任田所完部職ニ之庁宣アリ、
父自レ兼相ニ譲所帶ヲ

八 兼

姓藤原、氏田所、任ニ田所大判官代散位藤原朝臣ニ、
仁平二年十一月廿五日、父自ニ兼守ニ受ニ所帶之譲ヲ、
久寿二年十月十四日、補ニ任田所執事職ニ之御庁宣アリ、

九 則兼

姓佐伯、氏田所、任ニ田所大判官代散位佐伯朝臣ニ、
保元三年十月日、父自ニ惟兼ニ受レ譲蒙ニ田所書生職ニ之
免許之御庁宣アリ

十 為兼

姓藤原、氏田所、任ニ田所惣大判官代散位下總権守藤
原朝臣ニ、

仁安三年正月六日、補ニ任田所文書所ニ之御庁宣アリ、

十一 兼資

姓平、氏田所、建久元年十二月廿六日、父為兼ヨリ受
任ニ田所惣大判官代権介平朝臣ニ、又同年十二月日、被レ補ニ田所
書生職ニ之御免状アリ、此時初而補ニ任在庁職ニ、其外令レ兼ニ帶
松崎八幡宮下目祇園神人所職等者也ト云フコト家書ニアリ、
建仁二年十二月公廨田已久村一丁如ニ先例申受ル御免状アリ

十二 資家

姓平、氏田所、任ニ田所惣大判官代平朝臣ニ、通称新大夫、
建永元年二月、父兼資七十余ニ至リ疾瘞深キ故累代相
伝之受レ譲而任ニ田所惣大判官代ニ、
又建暦二年十一月朔日、公廨田二町為ニ國恩一令ニ加増一、已久村
一町、川戸村五反、西条郷五反、合ニ二丁ト云フ御免状アリ、
嘉禄元年五月三日、京高辻室町旅宿ニ於テ五十一歳ニシテ卒ス、
是前資家弟俊兼建久九年十一月六日、補ラルニ大掾職ニ事アリ

十三	俊兼	姓平、氏田所、 兄資家京都旅宿ニ於テ卒ス故、暫時為二養子一而 家督令ニ相続一、任ニラル從五位下一
十四	遠兼	姓平、氏田所、 安貞三年十月、父俊兼ヨリ受レ譲而相続、被レ任ニ田所惣大判 官代左近将監平朝臣一、嘉禎三年十一月六日、可レ領ニ作安南 郡内戸坂村楠木垣内一ヲ之御庁宣アリ
十五	高資	姓平、氏田所、 正元元年六月廿日、父遠兼ヨリ受レ譲而相続ス、 任ニ田所惣大判官代新左衛門尉一、
十六	資俊	弘安二年五月十日、温品村之内領知スト云フ証文アリ、 此時争論之事有而、弘長二年夏上洛ス、重代之書類 周防之国阿弥仮之宿所ニ預ケ置、文永三年二月十五日、 同所出火ニテ代々ノ書類焼失ス、故是迄年号等不レ詳ト雖 トモ、代々申傳ヲ以テ記スモノナリ、免状・国宣・府宣等者 残ル分ヲ以テ記載スル所也
十七	資賢	姓平、氏田所、 正応二年正月十五日、父高資ヨリ受レ譲而、任ニ田所惣大 判官代新左衛門尉平朝臣一、
十八	信兼	正安二年閏七月十五日、与ニフ河戸村二分方一ヲト云フ証文アリ
十九	信高	姓平、氏田所、 嘉元二年、田務職執事相伝之所帶父資俊ヨリ受レ譲而、 任ニ田所惣大判官代左衛門尉平朝臣一、
		徳治二年三月三日、被定ニ補河戸村司職ニ之御庁宣アリ、 杣村ノ内所々公文職、久和・小河内・安祭三箇所ニ領地スト 云フコト家書ニアリ

廿四	胤近	姓平、氏田所、 享禄四年十月十四日、父親資ヨリ受レ譲、任田所左衛門尉平朝臣、
廿三	親資	姓平、氏田所、 永正九年七月十日、父重久ヨリ受レ譲、任左衛門尉、社役如レ前、生年五十五歳、於京都卒ス
廿二	重久	姓平、氏田所、 文明二年九月十五日、父成清ヨリ受レ譲、家督相続、任田所左衛門尉平朝臣、
廿一	成清	姓平、氏田所、 享徳二年九月十五日、父在俊ヨリ受レ譲、家督相続、任田所左衛門尉平朝臣、
廿	在俊	貞治五年十月朔日、父信高ヨリ受レ譲、任田所惣大判官代太郎左衛門尉平朝臣、
十九	平朝臣	貞治六年十二月、河戸村一分方国衙職事可レ為ニ知行一旨御教書拝受アリ、
十八	平朝臣	至徳二年十月朔日、被レ定嚴島上卿役一御証文拝戴ス、御装束モ拝戴ス
十七	任田所	享徳四年閏四月七日、厳島社鎮座祭内侍免合一段 在所免 任田所左衛門尉平朝臣、
十六	任田所	霜月・二月之役任先例可二知行之旨受レ譲、社役如レ前 任田所新左衛門尉平朝臣、
十五	任田所	文明十三年七月廿三日、御要脚御段錢料田細野村七反、任先例、可二知守配之旨蒙御下知、
十四	任田所	文明十八年六月日、料田壬生之庄百十九丁五段六十歩、一段別五十文宛也ト云コト家書二見ヘ候也、社役如レ前
十三	任田所	姓平、氏田所、 天文廿四年二月廿三日、嚴島社二季鎮祭料田之事訴毛利家郡司山県民部受國裁、社役如レ前

廿五
就長

姓平、氏田所、

永禄五年二月朔日、父胤近ヨリ受レ譲、任_二新左衛門尉
平朝臣、

永禄五年十二月十八日、厳島両社御鎮座祭上卿
役、受_二毛利家国裁_一社役如前

廿三
元信

姓佐伯、氏田所、此時ヨリ姓佐伯ヲ用ユ
元龜二年十月、父就長跡式相続、社役如前

天正五年七月廿日、以_二先例_一上京、任_二豊前守_一、勅使御装
束モ引_二合先例_一調換ニ相成候事

文禄二年二月七日、厳島神社御鎮座祭祭両自レ是每歳
毛利家ヨリ寄附ト成ルト相伝恭古帳有之ル地

福島家広島在城、厳島社初申兩度御祭料廃止ニ相成リ候処、
重キ御祭事之由申出、二月・十一月兩度御祭事料一ヶ年
分社領式拾五石、扶持方式拾四人扶持四拾三石武斗、
都合六拾八石武斗ニ被_レ定候事、

寛永十一年六月二日卒ス

元和五年浅野入国之際御鎮座祭料先規ヲ以テ申出、
如_二先規_一六拾八石武斗宛行レ候事

姓佐伯、氏田所、通称弥次郎、

寛永十一年十月、亡父元信跡式相続、社役如前、
是ヨリ前父元信存命中天正十七年二月十四日、上京、任_二

左衛門大夫佐伯朝臣_一、

慶安三年二月二日卒ス

姓佐伯、氏田所、通称左衛門、世父_二

慶安三年六月朔日、亡父元資跡式相続、社役如前、
同年上京、任_二左衛門尉_一、明暦元年七月十日卒ス

姓佐伯、氏田所、通称縫殿介、

明暦元年十一月十日、亡父元貞跡式相続、社役如前、
受_二ク浅野家之命_一、寛文二年十二月八日卒ス

姓佐伯、氏田所、通称左衛門尉、

寛文三年四月十日、亡父元親跡式相続、社役如前、
受_二浅野家之命_一、

三十
元信

元禄三年十二月廿九日卒ス

三十一

元昌

姓佐伯、氏田所、通称主膳、

元禄四年六月朔日、亡父元信跡式相続、社役如レ前、
受「浅野家之命」、

正徳五年十月朔日上京、正親町大納言殿下二奉そなえた
備てまつ、田所旧書・証文等有ごひけんあり御披見おほはんのぎよみ、蒙おほなづるニ御懇おほねんのぎよめい之御命をこうむる、
元文四年十月廿日卒ス

三十二

元久

姓佐伯、氏田所、通称縫殿、

元文五年二月朔日、亡父元昌跡式相続、社役如レ前、
受「浅野家之命」、

宝暦四年四月四日上京、正親町殿下工願出、先例ヲ
以テ任あた従つ五位下美濃守みののかみ、
安永九年二月四日卒ス

三十三

元実

姓佐伯、氏田所、通称兵庫、

安永九年六月朔日、亡父元久跡式相続、社役如レ前、
受「浅野家之命」、

天明元年十月廿三日卒ス

三十四

元教

姓佐伯、氏田所、通称主税、

天明二年三月朔日、亡父元実跡式相続、社役如レ前、
受「浅野家之命」、勅使御装束破損二付受「国命」

天明五年九月上京、正親町殿下工願出、先例ヲ以テ速ニ
御装束調換二相成、拝戴ス
文化五年六月廿七日卒ス

三十五

元俊

姓佐伯、氏田所、通称伊織、

文化五年十二月廿四日、亡父元教跡式相続、社役如レ前、
受「浅野家之命」、

文政七年十二月廿一日卒ス

三十六

元朝

姓佐伯、氏田所、通称大進、

文政八年五月朔日、亡父元俊跡式相続、社役如レ前、
受「浅野家之命」、

文久三年八月廿五日卒ス

三十七

元顕

姓佐伯、氏田所、通称進、

文久四年正月廿三日、亡父元朝跡式相続、社役如前、

受「浅野家之命」、

明治三年五月廿三日卒ス

三十八

元繁

姓佐伯、氏田所、通称竹槌、

明治三年十月廿六日、亡父元顕跡式相続、社役如前、